

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401028		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム 慈幸苑		
所在地	熊本県玉名市横島町横島2493-1		
自己評価作成日	平成22年2月19日	評価結果市町村受理日	平成22年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13番12-205		
訪問調査日	平成22年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで歩いていける展望公園には桜の木や藤棚があり、短い花の期間に何度でも花見に出掛けられる。又そこには地域の方々も来られており、声を掛けて頂いたりと交流の場となっている。更にホームの周りにはみかん畑があり、花が咲き青い実をつけ黄色く色づく迄を見る事で、季節感を感じ取ることが出来る。高台にある為有明海や雲仙を一望できる他、加藤清正公により進められた干拓事業が豊かな農地になり、イチゴ・トマトと作られている様も一望できる。ホーム内では夜間入浴実施や個々に役割を担って頂き、お一人お一人の出来る事を活かしながら安心して自分らしい毎日を暮らして頂けるよう支援に努めている。又、入所者やその御家族も含めて一つの家族と捉え、自然体でその人らしいホームならではの「家」を築き、家族としての絆を深めている。普段の何気ない会話の中に沢山の「ありがとう」と「笑顔」を頂き、明日への活力となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居室から臨める有明海に目をやりながら手を合わせ、「私は毎日ここからお日さまを拝みます」と、話される入居者の柔和な笑顔に、「その方・その時」を大切にしたいホームの日常を感じ取れる。入居者全員が何らかの食事準備に関わっている姿は、決して強制ではなく日課であることは生き生きとした姿に表れている。家族会の理解や協力はホーム運営を支え、それに応え努力する職員との信頼関係はあつく、入居者の活動の機会を広げ笑顔に繋がっている。運営者の高齢者介護に対する熱い思いは、排泄支援や夜間入浴支援をはじめ、困難と思われがちな取り組みを、尊厳を念頭に置いた職員の共有やチームプレーにより可能に繋げている。海や山の四季を存分に味わえる環境の中、入居者・家族・職員それぞれが、それぞれの笑顔を引き出している「グループホーム慈幸苑」である。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事や催し物情報を頂き地元のスタッフを中心に地域活動への参加を徐々に増やしている。	職員は独自で作り上げた地域密着型としての理念を、事務所への掲示やカーデックスに添付し確認したり、ホーム会議の中で共有し入居者が地域の中で共に楽しく、生き甲斐のある生活の場として質を高めながらケアの実践に取り組んでいる。法人理事長も参加しての夕礼では、その日のケアや理念について振り返り、確認が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の習い事へお誘い頂き、月2回開催の絵手紙教室へ2～3名参加している。	日常的な散歩の中で出会う人々と会話したり、地元の商店街を利用することは入居者の笑顔や地域の一員であるという意識に繋がっている。地域の夏祭りには、主催者側より入居者用の椅子が準備されているなどホームとの関係が窺える。また地域公民館で月2回開催される絵手紙教室(2・3名の参加)での交流は入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の畑に農作業に来られた際は声かけし、暑い時期であれば冷たい飲み物などを入居者と届ける事を行っている。又、地域に住むスタッフの家族や入居者の家族が自発的に家屋外の作業を手伝って下さる事もある。近隣の方も野菜を届けて下さる事があり、認知症の人との関わりや支援の方法を直接感じて頂く機会になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、苑だよりを中心にホーム内の活動報告をし、実際一緒にホーム内でおやつ作りを体験することで現状を理解して頂いている。会議の場では貴重な意見が出る事もある。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、ホームと参加者との情報交換を行い、地域行事への参加の機会に繋げている。参加者より出された地域のお年寄りの情報や事例により、認知症への理解や対応についても話合われている。外部評価については家族会と併せ結果報告がされている。	今後も行政・地域代表者や家族会などホーム運営に関わる方々の参加により、出された意見をサービスの向上に活かしたいとしている。取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加し、日頃の様子を身近に感じて頂くと共に日常的に変化があればTELや出向く事で伝えることができる。各々の持てる能力と役割りがうまく運動していると考え。	運営推進会議の中で担当者に、ホームの実情や、サービスの取り組みを伝え、行政の情報については可能な限り提供を受けながら、ホーム運営に活かしている。管理者は他の地域でキャラバンメイトの講師や地域ネットワーク作りの準備の段階から携わっており、今後も担当者との連携によりその経験を生かしていきたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の方針により拘束をしないケアの実践に取り組んでおり、GHも立ち上げ時より「鍵なし・睡眠剤なし・抑制なし」の3無主義を徹底して実行している。	毎年法人主催の身体拘束の排除に関する研修を受講し、「鍵なし・睡眠剤なし・抑制なし」の3無主義の徹底した実践を心がけている。玄関は解放され職員による見守りにより、自由な生活に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より連絡・報告・相談を行い、又、お互いのケアについては指導をし合い防止へ繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できている	資料等の書面にてスタッフ間で閲覧出来るようにしている。また、情報が必要な家族には随時提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて説明を行い納得を頂いた上でサービス提供へ繋げている。又、不明な点はいつでもTEL頂けるよう言葉添えも心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時や面会時に意見を頂き、今後活かせるようスタッフ全員で話し合い、法人からも助言を頂きながら改善に取り組んでいる。又、面会時にも出来るだけ話しやすい雰囲気作りに心掛けている。	家族の訪問時やモニタリング時、ケアプラン変更時にケアや運営に関する意見をいただき、それらの情報を職員全員で共有して、運営等に反映させている。家族からの要望で、新年度の日帰り旅行(家族も)の行き先も入居者に負担の少ない目的地が予定されている。今後は家族アンケートの実施についても検討していきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や日々の業務の中や問題発生時、その都度話し合いや意見を出し、法人や運営者へ伝え助言を貰い反映に努めている。	代表者は管理者・職員と運営やケアに関して話し合う機会を日常的に設けている。管理者はお互いの意見も出しやすく、良い意見は運営に反映できるよう努めている。入居者の絵手紙教室への参加や、個性に配慮した居室入り口の表札など職員の意見やアイデアが反映されている。職員はホームの明るい雰囲気働きやすさを感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休もある程度可能であり、突発的な子供の学校行事や地域行事に参加する為の勤務交替もお互いの協力があり、職員同士の連携が取れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしている	法人内での勉強会の開催、専門的実践者研修への参加、資格取得の奨励がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH玉名支部連絡協議会への参加を通し、機会作りを得ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問にて本人・家族の思いを尋ね、サービス提供時より出来るだけ本人の意思に添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より話をよく聞き、困り事や今後についての思いを知り、サービス導入時への支援へと努めている。本人も含め御家族と話す機会を大切に、本人と一緒に支えて頂ける大きな家族と捉え関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在どんなサービスが必要か御家族からの要望や困り事を知り、必要なサービスについての情報を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者という位置ではなく一緒に生活している生活者(家族)としてホームで過ごしている。場面場面で年齢に応じた役割作りを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の御家族もホームの一員という思いである。御家族へは無理のない形で付き合い頂けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や配偶者が同法人の他事業所に居られる為面会お誘いをし出かけている。また、自宅近隣のお友達が訪ねて来られる事もある。	日常的な食材の購入や必要な衣類は、地元のスーパーを利用することにより馴染みの方々との交流に繋げている。家族の協力により、盆・正月の帰省や外泊をはじめ、墓参や親類の集まりへの参加などが行われている。又、同法人の施設や事業所を利用されている親戚・配偶者への面会支援はお互いの楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時は互いに手を握られ助け合われる姿が多く見られる。又、歩ける方が車椅子の方を押されることは常に見られる。リビング内では座位位置を工夫したり、会話の仲介を行い寂しい思いをされないよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療依存度が高くなり同法人の他事業所へ移動された後も本人の混乱がないよう継続的関わりを持つように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活ではあるも一人一人の暮らし方や望まれる環境を、会話の中や行動などで掴み支援に繋げる様心掛けている。	一人ひとりの思いに沿ったケアの重要性を職員は常に意識し、日々の会話や散歩・入浴支援中など入居者がリラックスした気持ちの中から思いや意向を把握している。困難な方は面会時の家族に尋ねたり、動きや傾聴により把握に努め、遠方の家族へは電話やファックスにより連絡をとり確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	機会ある毎に本人や御家族より情報収集を行いこれまでの暮らし振りと掛け離れないよう気をつけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事出来ない事がその日によっても違う為、見極めスタッフ全員が把握し、本人の負担の掛からないよう支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを担当制にし、一ヶ月毎に評価をし見直しを行っている。又、ホーム会議での話し合いや法人からのアドバイスを頂き、本人様独自のプラン作りへと心掛けてている。	入居者の担当職員がプランを担当し、1ヶ月毎に見直しを行なっている。ホーム会議で他の職員の気付き、医師や法人ケアマネジャーのアドバイスを受け個々に応じたプラン作成としている。又、入居者のその時を支援する為、本人・家族の意見や要望を活かせるよう努めている。	入居者・家族への十分な説明や話し合いの後、計画書への確実な署名もしくは記名捺印が必要と思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム日誌やケース記録に詳細に残し、ケアプランの評価に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の気候や体調により希望に応じられるよう、法人からの協力も得支援に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域公民館にて開催の絵手紙講座に、数名ではあるが利用させて頂いている。又、地域行事・学校行事へのお誘いも頂いている。 又、学校や幼稚園からの来苑もあり入居者の楽しみとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回／W医師の回診があり、継続的に状態を見て頂いている。又、歯科・眼科等入所前のかかりつけ医の受診も支援している。	これまでのかかりつけ医で良いことを説明している。現在は協力医をかかりつけ医としている入居者がほとんどであり、週1回の回診が実施されている。他科受診については、基本的に家族対応としているが、ホームでも柔軟に対応し健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時に備え日々の状態を伝え情報交換をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院にて環境が変わり、不安になれないよう、できるだけ馴染みのスタッフが顔を見せようし、退院後もスムーズにホームの生活に戻れるよう努めている。病院とホーム間では書面にて情報を共有できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り承諾書に記入頂く事から始め、本人の状態に応じて、その都度話し合いを重ねている。本人・御家族の望まれる最期が迎えられるよう支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に向けた対応について説明を行い、看取り承諾書への記入により確認している。状態変化に応じた話し合いを重ねながら、本人・家族の思いを全職員で共有し、それに応える支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会にて看護師からの指導を受けたり、外部講師による救急蘇生法の講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回昼間・夜間を想定し消防署立会いの元避難訓練を実施している。	昼間や夜間を想定し消防署立ち会いの避難訓練を実施している。併設施設の協力体制は十分であるが、管理者は地域の方がたも参加しての訓練や、今後もまずは火を出さないという強い意識を、全職員がもてるよう取り組んでいきたいとしている。	今後も運営推進会議などを通して、地域との協力体制の必要性について検討し実現に繋がることを期待される。また火災訓練と併せ、立地的にも地震や風水害についての災害対策も必要と思われる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼のないようその方に応じた声掛けに心掛けている。特に排泄の部分では他者に聞こえないように小声で伝えたり、周りの状況を見て本人にのみお解かり頂ける声掛けにて対応している。	入居者の尊厳やプライバシーに配慮した取り組みについて、管理者は職員の言葉使いやケアでで気になることがあればその時に伝えている。呼称については、入居時に本人や家族に確認し入居者の安らぐ呼びかけや、プライバシーに配慮した排泄への誘導、入室の際のノックや声かけも確認された。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしますか?」「どうしましょうか?」とまず尋ねている。又、答えやすいような質問の仕方や、自然と体が動くような場面設定作りに心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気分や状況に応じた働きかけに心掛け、気持ちが乗られない時には無理強いせず見守り、本人様の様子を見ながら支援へ努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣不十分な時は、一緒に洋服を選んでいる。又、理髪では地域の美容院や同法人に定期的に来苑される理容サービスを利用頂ける様支援している。外出時は化粧のお手伝いも欠かさない。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・切り込み・味付け・盛り付け・配膳・下膳に至る迄個々に関わって頂いている。得意な献立はお任せし教えて頂く。菜園の野菜を使う事は欠かせない旬な一品である。	入居者は献立・野菜の収穫・食材の下ごしらえ・味見・片付けなど希望に応じ何らかの作業に関わっている。希望の多い刺身も鮮度にこだわり取り入れたり、その方の誕生日に開催する誕生会や、配達・手作り弁当を持っての外出など楽しい食事支援である。訪問当日「盛り付けはこれでよいか?」と手際よく準備される方やご飯をよそわれる方などホームの日常が窺えた。職員も一緒に夜の希望の献立をたずねたり、会話をしながらの楽しい時間であった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の今の状態に合わせ形態や量を個別に対応している。スタッフは共に過ごす事で、水分や食事摂取量を把握し一日の必要所要量がトータルで補給できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕・毎食後声掛けしている。磨き残しがあれば再度声掛けしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄誘導ノート」を利用し排泄の間隔や本人の訴えやサインを把握し、トイレでの排泄に心掛けている。	開設当初から大切に取り組んでいる排泄の自立支援は、入居者全員布パンツ使用でトイレでの排泄という尊厳にも配慮した取り組みである。夜間のみ使用される方のポータブルは、日々の洗浄や日光消毒により清潔に保たれ気持ち良い排泄に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	同法人の他事業所へ訪問し一緒に体を動かしたり、往復の移動により運動量は増える。ホーム内では体操や散歩と体を動かして頂いたり、牛乳やヨーグルトの飲用をお勧めしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴を実施しているが希望に応じて日中の入浴にも対応している。又、状況によっては法人内ディサービス中の友人との入浴や、近隣の温泉施設も利用している。	週4～5回の夜間入浴を支援している。地元の温泉施設を利用したり、昼間の入浴や体調に配慮しながらゆっくり長湯など個々の希望にも対応しながら楽しい入浴に繋げている。拒否の方へも来訪時の家族や職員のコミュニケーションにより支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室でくつろがれたり居室で休まれる時間も設けている。冬場は湯たんぽ使用し安眠へと繋げている。又、冬の朝食時間はそれぞれ起床された時間にゆくりと提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や看護師からの諸注意にて確認している。服薬時の見守りは必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の興味ごとを取り入れ、希望に添えるよう心掛けている。家庭菜園の水やりを習慣とされ管理まで楽しめたり絵手紙教室参加も御希望の一つである。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は散歩へ出掛けたり買い物同行・ディ訪問等出掛けている。近隣の温泉施設や自宅への外出も状況を見ながら、希望に添えるようご家族と相談しながら支援している。	天候や入居者の体調に配慮しながら近隣の公園に出かけたり、ホーム敷地の菜園の手入れや日光浴などできるだけ戸外への外出を心掛けている。家族との温泉や外食支援、ドライブを兼ねて花見（菖蒲・蓮など）や入居者の作品も展示された“絵てがみ展”見学など楽しい外出が記録からも窺える。同法人の施設へは散歩や、徒歩又は車で月一回の体重測定や、行事参加など日常的に訪問している。近々地元ホテルで催される恒例の“デザートバイキング外出”も計画されている。	本年度インフルエンザの影響で、恒例だった家族も参加しての日帰り旅行が中止されたが、新年度は負担の少ない目的地などが計画されており、実現が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理できる方はご自分で管理頂き、買い物希望の際一緒に出向き購入頂いている。管理困難な方は事務所にてお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は特養に設置してある公衆電話を利用頂いている。お便りを書かれた後の投函や返信のお渡しをお手伝いしている。他部門スタッフの見守りや協力を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ入居者と作品を飾ったり玄関にも季節の花や作品も展示し季節に応じた工夫を心掛けている。室温調整は皆様の体感による声も大切にしている。	高台に位置し採光・眺めもよいリビングには、ソファや仏壇が供えられた段上がりの畳の間・デッキなど入居者の安らげる空間を随所に設けている。浴室・トイレは臭気もなく清潔で、玄関をはじめ随所に季節の花が飾られている。廊下には入居者や職員の作品・外出の思い出の写真が掲示され心和む空間である。	新年度を迎えるにあたり、共用空間の掲示や展示物の見直しを話し合うことにより、職員の配慮や意識向上に繋がることが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓席や和室も利用しゆっくりと過ごして頂ける様努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	コタツやテレビ家具など希望にて持ち込まれそれぞれの方の「家」(安心できる居場所)に近付ける様にと工夫している。	入居時に他の方の居室を許可のもと見てもらい、馴染みの品の持ち込みを依頼している。家族の協力により植物や時計、趣味の作品が掲示された居室は明るく有明海がのぞめ、職員の配慮により清潔に保たれ居心地の良さに繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室入り口には手作りの表札を掲げ自由に移動出来るようにしている。又ホームで共に暮らす入居者やスタッフの写真も掲示し活用頂いている。		